

**兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会  
第二回幹事会 (R7. 2. 20) 概要**

**○令和6年度事業の進捗状況（兵庫県）について**

**【幹事】**

学術調査のことで質問させてほしい。岩盤調査について大変素晴らしい取組であるが、大島田地区のボーリング調査が世界遺産とどうかかわってくるのか分からない。

フォトコンテストを分析して世界遺産に何が通用するのか分からない。

観光を盛んにしたいというのは目的の一つではあるけれど、世界遺産の目的には観光は一つもない。遺産を守っていくのが世界遺産側の趣旨。ユネスコに対して言う意見の中では観光は前面に出さないほうがいいのではないかと私は思う。

**【事務局】**

岩盤調査のことは、資料に記載のとおり成立過程を明らかにすることを目的として泥岩や砂岩の強度の分析と堆積年代の分析を行っている。質問のあったボーリング調査は、手掘りの試料を分析しており、6mぐらいまでしか掘れなかった。今後さらに詳細な調査にはもう少し深いところまで掘る必要がある。

**【幹事】**

もともと陸地であったところを掘って何が渦の発生要因に繋がるのかが大きな疑問を持っている。

**【事務局】**

海底のところは渦が流れて堆積物が残らない。今回調査した大島田地区に堆積があると想定して調査しており、渦潮ができた経緯とその後の地形環境の変化はかなり良好なデータが出たと受け止めた。渦潮の始まりまではいけなかったが、その後どんな経緯を進んでき、変化してきたのかという情報は得られたと思う。

**【幹事】**

何年か前の兵庫県の調査では、鳴門海峡には浸食されやすい石と浸食されにくい石が2種類あって、浸食されにくい石の部分が残っているという結果だと記

憶している。なぜそういうことになったのかということ調べる方が重要じゃないかと思う。

**【事務局】**

「硬い」「柔らかい」の分布状況とかその辺りも含めて今追加調査されていると思う。

**【事務局】**

2つ目の質問の景観だが、自然美がなかなか難しいことは承知しており、最上級の自然現象でいくべきという意見も十分理解している。あらゆる可能性を探っている状況であり、自然美を証明する方法も色々あるではないかと事務局としては理解している。

**【幹事】**

写真写りが良いものには橋が写っているということも言っていたが、一時期自然遺産を目指すのであれば橋は潰してしまえという人がいた。四季が云々ということを出したら日本中どこでも探せる。それでここが一番だと言えるのかが私の疑問。

**【事務局】**

人の心を打つような類まれな自然美というものを検証・検討したいと考えている。

○世界遺産登録の方向性について

**【幹事長】**

検討会議での結論としては評価基準vii、viiiに重点化した調査を継続し、世界遺産を目指す。評価基準については今までいろいろ調査いただいた生活や生業との関わりや自然歴史的文化的な景観プロセスも十分に盛り込んだものとしていくということとなり、この形で総会に付議すると考えているがいかがか。

**【一同】**

特に異論なし

○令和7年度事業計画について

**【幹事】**

過去にはこの学術委員会には徳島大学の教授が地質と海洋で入っていた。鳴門

の海峡なのに徳島大学や鳴門教育大学の先生が入っていないことにいつも不思議に感じている。

### 【事務局】

徳島大学・鳴門教育大学の先生がいた方が望ましいと思うが、現在はこの分野で世界遺産登録に向けて最も詳しい方を選んでいっているところであるのでご理解いただきたい。

### 【幹事】

学術会議の地質の話を見ると阿波・鳴門のことばかり。鳴門海峡というと徳島鳴門のことだと思う。最初は2人の教授が参加して、ものすごく市民活動で色々な講習会を開いていたり、学生に教えたり、徳島が盛り上がっていた。その2人が退任してから活動が弱くなってきていると感じているので、是非もう一度検討いただけたらありがたい。

鳴門海峡の渦潮世界遺産は鳴門徳島と一緒にPRしなければいけないと思っている。世界遺産渦の会というボランティアチームがあるが、関西万博に向けて徳島鳴門と一緒にやりたい。